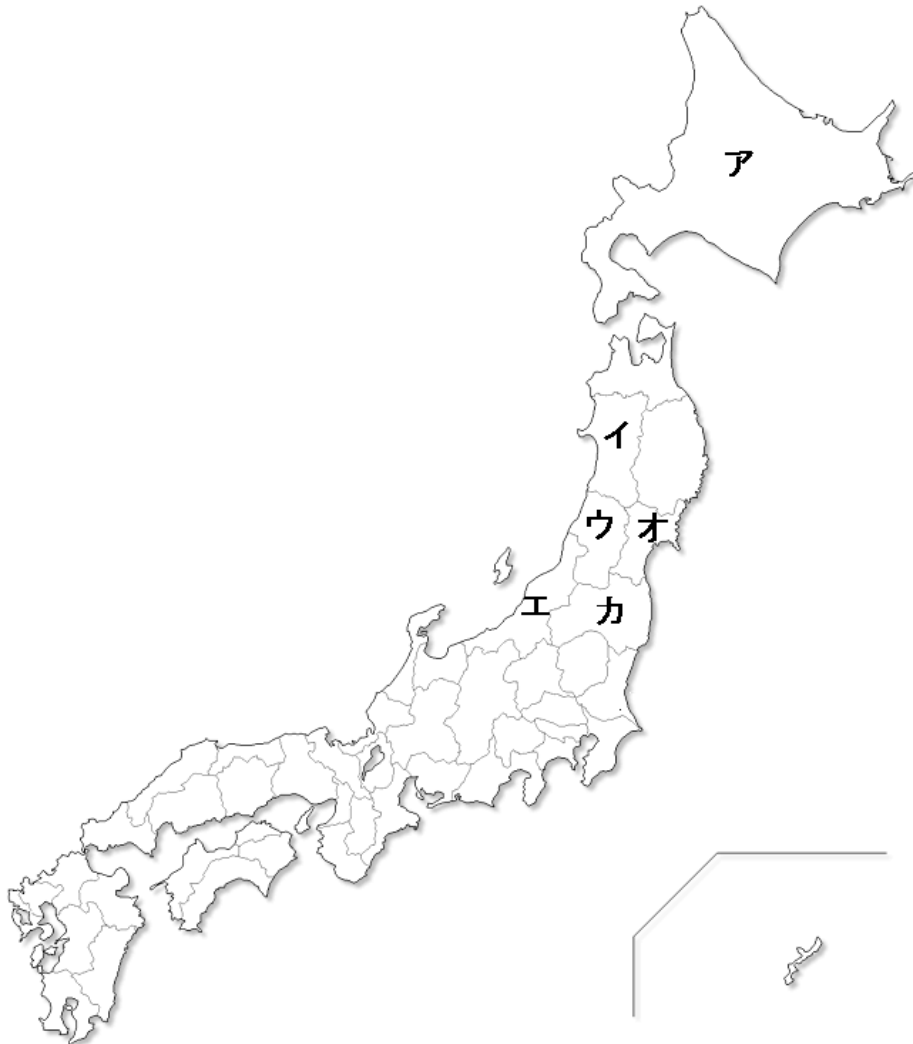


米は日本人の主食です。縄文時代の後半(今から2400年前)、米をつくるようになり、今のような定住生活が始まりました。また、江戸時代までは、米は年貢として支配者に差し出す物でもありました。米と日本人とは切っても切れない関係にあるのです。これから、日本の米のことを学びましょう。

【問題 1】 2019年の米の収穫量が一番多い都道府県はどこでしょうか。

ア. 北海道 イ. 秋田県 ウ. 山形県 エ. 新潟県 オ. 宮城県 カ. 福島県



【答え】エの新潟県です。1. 新潟県…64万トン 2. 北海道…58万トン 3. 秋田県…52万トン 4. 山形県…40万トン 5. 宮城県…37万トン 6. 福島県…36万トン です。暖かい気候と水が必要な米が北海道でもたくさんとれるようになったのは、夏が涼しい気候でも育つように品種改良されたからです。

【問題2】米の品種はいろいろあります。問題1のそれぞれの都道府県で、おもに作られている品種は何ですか。①のグループと②のグループを組み合わせ、線で結びましょう。

① ア. 北海道 イ. 秋田県 ウ. 山形県 エ. 新潟県 オ. 宮城県

② 1. きらら397 2. ササニシキ 3. コシヒカリ 4. あきたこまち 5. つや姫



【答え】北海道…きらら397、秋田県…あきたこまち、山形県…つや姫、新潟県…コシヒカリ、宮城県…ササニシキです。なかでも、コシヒカリという品種は人気があり、47都道府県の40以上の都府県で作られています。特に新潟県の魚沼という地方で作られるコシヒカリが人気です。ふつうのコシヒカリは10kgで4000円くらいですが、「魚沼産コシヒカリ」になると10kgで8000円くらいで売られています。そして、どういうわけか、「魚沼産コシヒカリ」は、魚沼地方で実際にとれる米の量の90倍近く売られています。それは、魚沼産のコシヒカリを少しだけまぜたり、ほかでとれたコシヒカリを魚沼地区で精米したりしただけで「魚沼産コシヒカリ」として売っているからです。

最近では、愛知県…あいちのかおり、三重県…みえのゆめ、青森県…つがるロマンなど、地名を入れた品種名や凝ったネーミングの品種名が増えてきています。

※日本穀物検定協会の「米の食味ランキング」最高位「特A」の品種（魚沼産 コシヒカリ以外）
・北海道産 ゆめぴりか ・青森県産 青天の霹靂 ・宮城県産 ひとめぼれ
・栃木県産 とちぎの星 ・岩手県産 銀河のしずく ・山形県産 雪若丸 など

【問題3】日本で一番広い湖は琵琶湖です。二番目は茨城県にある霞ヶ浦ですが、1957年までは、八郎潟(秋田県)が二番目でした。八郎潟はどうなってしまったのでしょうか。



- ア. 地震で山がくずれて、うまってしまった。
イ. 人の手によって、うめてしまった。
ウ. もともと浅い湖であったため、日照りが続いて、水がなくなってしまった。
エ. 人の手によって干拓(堤防をつくり、その中の水を干して陸地にすること)した。
オ. そのほかの考え

【答え】エです。たくさんの米を作るために、八郎潟は干拓されました。干拓でできた陸地は大潟村になりました。この村に移ってきた農家は、一戸あたり15ヘクタールの田んぼ(当時の農家一戸あたりの農地の約11倍)で、大型機械を使って米を作り始めました。



干拓前

干拓後



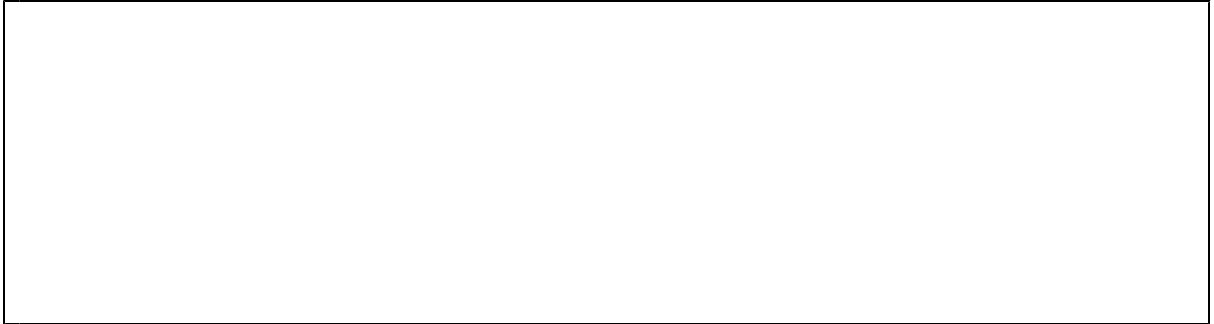
※絵本『八郎』滝平二郎の舞台にもなりました。

【問題4】1954年に学校給食法ができました。これによって、多くの小中学校で学校給食が行われるようになりました。このころの学校給食の主食は何だったのでしょうか。

- ア. 日本の米を使ったご飯
- イ. 日本の小麦を使ったパン
- ウ. アメリカから買った小麦を使ったパン
- エ. アメリカに、ただでもらった小麦を使ったパン

【答え】エです。 それにしても、【問題5】 どうして、初めのうち、アメリカは小麦をただで日本にわけてくれたのでしょうか。

[わけ]



当時の給食のメニュー



【答え】 答えを教える前に、アンケートをとります。今日の朝のことだから、覚えていますね。はい、今日の朝食で、何を主食として食べましたか。

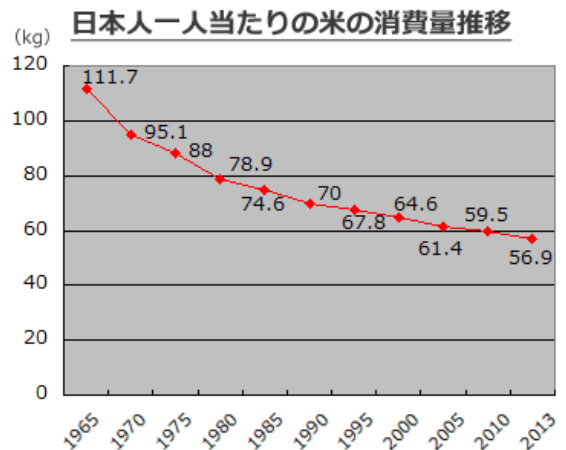
ア. ご飯 ()人 イ. パン ()人 ウ. そのほか ()人

たぶん、このアンケートから答えが見えてくるとと思います。(たいてい、半分くらいの人が「イ」と答えます。) 給食が始まる前は、日本人の主食は米ですから、ほとんどの日本人は朝食もご飯でした。月曜日から金曜日まで学校給食でパンを食べるようになった子供たちは、大人になってもパンをよく食べるようになりました。つまり、アメリカの小麦を日本に売るための作戦だったのです。この作戦は成功し、町中にパン屋さんができ、スーパーにもパンがたくさん並んでいます。その結果、大量の小麦が必要とされていても、日本の小麦の自給率(自分の国で作っている割合)は、現在14%しかありません。

もともとパンは、フランスパンのように「茶色でかたい」ものでした。そこで、日本人にパンを食べてもらうために、日本のパン会社は「米」のような「白くてやわらかい」パンを作りました。この工夫もあって、さらにパン食が広がりました。

【問題6】 日本の政府は米をたくさん作らせる一方で、アメリカの小麦がたくさん日本に入ってくることには何も手を打ちませんでした。となると、米があまります。そこで、日本の政府はどうしたのでしょうか。

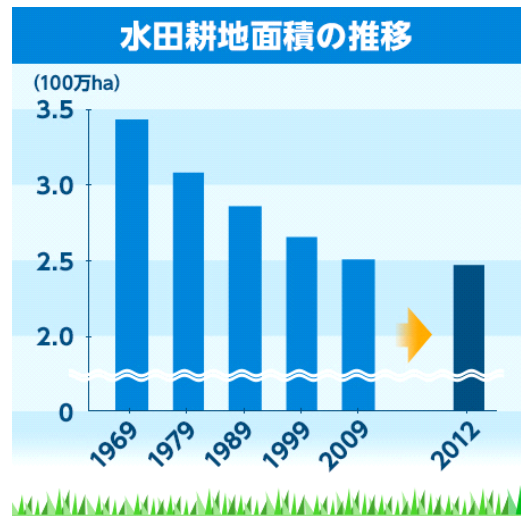
- ア. あまった米を学校給食に回した。
- イ. 農家の米を作る田んぼを減らした。
- ウ. そのほか



【答え】アとイです。1978年ごろから、学校給食にご飯が登場し、その後、年々増えていき、ご飯が週あたり3回出されるまでになります。イのことを減反政策といいます。米を作らない田んぼには補助金が出されましたが、農家にとっては、補助金は十分に生活できる額ではありませんでした。

【問題3】の大潟村では、政府の減反政策に従うという農家と従っていたら生活できなくなるという農家との対立がおきました。1995年までは、食糧管理法という法律により、政府が農家から米を高く買って、消費者に安く売るという制度がありました。そのため、農家が米を自由に売買することはできず、減反政策に従わないと法律違反になりました。その

とおりに減反して収入が減ってしまったために、大型機械を買った分の借金をかかえたまま、村を去る農家が出てきました。その一方で、減反政策には納得できないと米を作り続け、自由に米を売ることができるようになった今では、一年間に40億円を売り上げているグループもあります。



1995.10.27
読売新聞 秋田版



ヤミ米に幕引き、シンボルを撤去

来月一日からの新食糧法施行を前に、秋田食糧事務所は、千六百、大潟村へ入る道路などに立てていたコメの不正規流通防止を訴える看板を撤去した。新食糧法で自由米（ヤミ米）が計画外流通米として正式に認知されるに伴う措置。食糧法を逸り、自由米派と食糧保守派の対立が続いた大潟村のシンボルの撤去に、自由米派の農家は「記念すべき日」と話している。

撤去された看板は、同村内と周辺の道路わきにか所に立てられたもの。黄色に塗られた、ビヤ板に、運送業者あてに「不正規流通米は運送しないようにお願いします」と書かれていた。

同村では、一九八五年十月から十二月まで、同事務所と県が村に入るすべての道路で二十四時間体制の一斉検問

食糧事務所、「禁止」の看板取りはずす大

を実施。この際、無許可でコメを販売したとして、県と同事務所が食糧法違反の疑いで農家三人を眼撃し告発。眼撃は八七年一月に秋田地検に書類送検したが、同地検は八八年一月に証拠不十分として不起訴処分した。

看板はその後、同村内外三千が所に立てられた。不起訴処分を契機に同村では自由米農家が急増、自由米派農家で作る大潟村稲作経営者会議の会費が八八年秋、特製紙袋を使って米の販売を始めたからだ。

看板は九一年の台風十九号ですべて倒れたが、翌九二年に十か所に縮小して立て直された。

同会議の黒瀬正博事務局長は、看板撤去について、「記念すべき日。看板は古い行政手法のシンボルのよなもの。いずれ、記念に看板と検問所を復元したい」と話していた。

【問題 7】 2008年の秋、カビが生えたり、農薬(メタミドホス)がしみこんだりした米をと
ても安い値段にして、政府が業者に売っていたことがわかりました。そういう米は事故米
(汚染米)とよばれました。さて、安く仕入れた事故米を業者は何に使ったのでしょうか。

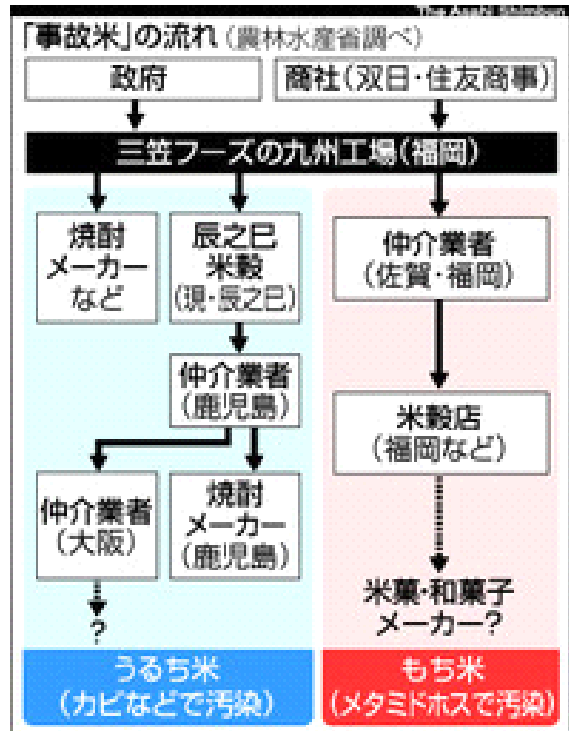
- ア. 工業用の糊として使った。
- イ. 赤飯にして、給食に使った。
- ウ. 和菓子の原料として使った。
- エ. 焼酎の原料として使った。
- オ. オムレツに入れ、給食に使った。

※メタミドホス

農作物につく虫を殺すために使われます。中国製のギョーザを食べた人が胃けいれんやげりをおこし、
入院した事件がありました。会社に不満を持つ中国の労働者がメタミドホスを入れたことが、あとか
らわかりました。

【答え】イウエオです。事故米は、とても食べられるものではありません。政府は工業用の糊として、業者に安く売りました。事故米は1kgあたり10円で売られました。(ふつうの米は1kgあたり300円です。)

しかし、糊としては使われず、食用として使われました。食糧管理法が廃止され、その後の2004年には、米を自由に売買できるようになりました。そこで、政府から事故米を格安で買った業者は、売るまでにいくつかの業者を間に入れ、事故米の流れをわかりにくくし、事故米をふつうの米より少し安い値段になるようにして売りました。



「事故米」遠い幕引き

農相・次官が辞任

構造問題は置き去り

輸入義務を優先視

先消費者

農業基準 設定後も

事故米 コスト抑制で着色せず

農水省 不正転売の横行招く

社会的大きさがみ

食の安全を揺るがした

太田農相辞意

健康・負担増加も

【問題8】事故米(汚染米)の多くは、どこの米だったのでしょか。

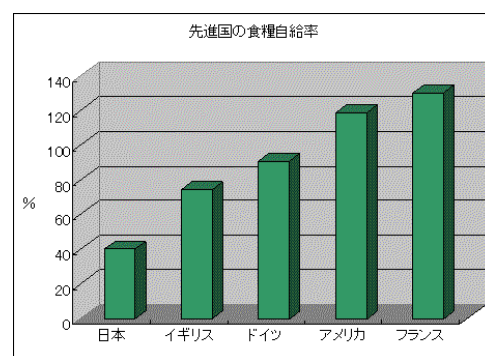
- ア. 売れ残った日本の米
- イ. 中国・タイ・アメリカなどから買った米
- ウ. そのほか

【答え】イです。アも少しはありますが、ほとんどは外国から買った(輸入)米です。日本は米があまっているのに、なぜ、米を輸入しているのでしょうか。

今からおよそ70年あまり前、世界が不景気になってしまい、イギリスやフランスは、自分の国と自分の植民地との結びつきを深め、ほかの国が入れないように貿易をしました。これをブロック経済といい、外国の製品に高い関税をかけ高い値段にして、自分の国の製品を守るという保護貿易を進めたのです。そのため、はじき出された日本やドイツが新たに植民地を求め、第2次世界大戦がおきました。

戦後、保護貿易が戦争の一つの原因となったので、これからはそれぞれの国が自由に貿易できるようにしよう(自由貿易)という流れが、国際社会にできました。その働きをするのが、世界貿易機関(WTO)です。そのWTOの決めごとで、外国から米をまったく輸入していない日本は、「ミニマム・アクセス」(最低輸入機会)をつくれれば、外国の米に高い関税をかけて日本の米を守ることができることになりました。1995年から、日本政府は外国の「ミニマム・アクセス」米の輸入を開始し、2000年からは毎年77万トンを入力しています。今回、「事故米」として出回ったのは、政府の倉庫に残っていた「ミニマム・アクセス」米なのです。

今日は「米」について、学びました。日本は工業の発展に力を入れ、世界の中でも進んだ工業国となりましたが、農業には補助金を配るだけで、発展させてきませんでした。今や、食料自給率(自分の国の食料を自分の国で作っている割合・カロリーベース)は39%で、先進国(アメリカ・イギリス・フランス・ドイツなど)では最低です。日本の米や日本の農業をどうしていくのかは、これからの重要な問題です。



※2018年、TPP(環太平洋パートナーシップ協定)に日本が参加しました。日本国内では、農業団体の強い反対があり、参加か不参加かで国会でも議論されましたが、結局、政府の方針で参加することとなりました。TPPとは、参加している国の間で例外なしに関税をなくすというものです。参加国は、シンガポール・ブルネイ・チリ・ニュージーランド・ベトナム・ペルー・オーストラリア・アメリカ・マレーシア・カナダ・メキシコ・日本です。しかし、アメリカは2017年にトランプ大統領が離脱宣言し、脱退しました。その一方、2021年、中国と台湾がTPPへの加入申請をしました。

これからは、段階的に「関税なし」になっていきます。そうなると、外国で車や機械を売りやすくなりますが、外国から安く農産物が入ってきます。「例外なし」ということから、働く人が参加国の間で自由に出入りしたり、様々な分野でのやり方までも参加国の間で採り入れられるようになるかもしれません。

参考サイト：大潟村公式HP 「教室の窓から見える学校給食」